2．大学院　教育課程表

●必修 ▲選択必修 □選択

科目区分		ナンバリング	授業科目名	形態	単位 必修	単位 選択	2026年度開講	配当年次・学期 1 前	1 後	2 前	2 後	幼専免	小専免	修了要件
基礎科目		435	地域・学校実践演習Ⅰ	演習	2		前	●				○	○	2科目4単位必修
		435	地域・学校実践演習Ⅱ	演習	2		後		●			○	○	
基本科目		435	現代教育実践学Ⅰ（臨床教育学）	講義		2	前	□		□		○	○	2科目4単位必修/選択5科目のうちから3科目6単位以上選択履修
		435	現代教育実践学Ⅱ（幼児教育学）【隔年開講】（2026年度開講せず）	講義		2	不開講	□		□		○		
		435	現代教育実践学Ⅲ（教育心理学）	講義		2	前	□				○	○	
		435	現代教育実践学Ⅳ（発育発達学）	講義		2	後		□			○	○	
		435	現代教育実践学Ⅴ（教育社会学）【隔年開講】	講義		2	前	□		□		○	○	
		435	研究方法論Ⅰ	演習	2		前	●						
		435	研究方法論Ⅱ	演習	2		前	●						
専門科目	カリキュラム開発領域	435	カリキュラム開発特論Ⅰ（学力と評価）【隔年開講】	講義		2	後		□		□	○	○	「地域教育実践演習Ⅰ」または「学校教育実践演習Ⅰ」1科目2単位、「地域教育実践演習Ⅱ」または「学校教育実践演習Ⅱ」1科目2単位を選択必修 13科目から4科目8単位以上を選択履修
		435	カリキュラム開発特論Ⅱ（リテラシー）【隔年開講】（2026年度開講せず）	講義		2	不開講		□		□		○	
		436	カリキュラム開発特論Ⅲ（身体と健康）	講義		2	前			□		○	○	
		436	カリキュラム開発特論Ⅳ（表現）【隔年開講】（2026年度開講せず）	講義		2	不開講			□		○	○	
		435	カリキュラム開発特論Ⅴ（集団学習論）【隔年開講】	講義		2	後		□		□	○	○	
		436	学校教育実践演習Ⅰ	演習		2	前			▲		○	○	
		436	学校教育実践演習Ⅱ	演習		2	後				▲	○	○	
	教育コミュニティ創造領域	435	教育コミュニティ特論【隔年開講】（2026年度開講せず）	講義		2	不開講	□		□				
		435	多文化共生社会特論【隔年開講】	講義		2	後		□		□			
		436	対人援助特論	講義		2	前			□				
		435	家庭支援特論【隔年開講】	講義		2	後		□		□			
		436	地域教育実践演習Ⅰ	演習		2	前			▲				
		436	地域教育実践演習Ⅱ	演習		2	後				▲			
	現代教育実践領域	435	教育組織開発特論【隔年開講】（2026年度開講せず）	講義		2	不開講		□		□			
		436	コミュニティ・スクール特論	講義		2	後				□		○	
		436	シチズンシップ教育特論	講義		2	前			□			○	
		435	インクルーシブ教育特論【隔年開講】	講義		2	後		□		□	○	○	
研究指導		435	研究指導Ⅰ	演習	1		前	●						4科目4単位必修
		435	研究指導Ⅱ	演習	1		後		●					
		436	研究指導Ⅲ	演習	1		前			●				
		436	研究指導Ⅳ	演習	1		後				●			

※修了要件を満たした上で合計 30 単位以上を修得し、かつ、修士論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること。

大学院　授業概要一覧

授業科目名		授業の概要
地域・学校実践演習Ⅰ		文部科学省の教育改革の方向やＳＤＧｓの視点から学校園や施設等、その他での課題を取り上げてフィールドワークを行う。現在の職場、インターンシップ、ボランティア、その他でフィールドワークができる場所を選び、観察および関係者へのインタビュー等を通して、課題探求及び課題解決に向けての案を提示する。そのために、省察的実践と本授業で取り上げる事例について、学問領域、職種、年齢、学校と地域などフィールドの領域を超えて、事例を多角的・多面的に考察し、実践への方向を探る。
配当年次	1年前期	
単位数	2単位	
地域・学校実践演習Ⅱ		本授業は、我が国の教育が直面する不登校・いじめ・子育て不安等の今日的教育課題を、学校や家庭、地域を包括的に捉える視点からの解決をめざし、とりわけ、心理教育が担う役割や具体的方策を中心に、理論的、実践的に検討する。子どもや保護者、子どもの支援に関わる人々を対象とする心理教育を実践するためにカウンセリング心理学の理論やスキルを習得し、生徒指導・教育相談に係る力量や家庭・地域教育支援に関する資質の向上を図り、教員や保護者等への適切な支援・助言ができる力量を習得する。
配当年次	1年後期	
単位数	2単位	
現代教育実践学Ⅰ（臨床教育学）		臨床教育学の基本的な研究上の課題と視点を示した上で、個から普遍への方向性を持ち、現実から出発し、具体的な問題解決を志向する臨床教育学の視座が現代の教育実践において、どのような意味をなすものなのかを考究する。具体的には、様々な課題を持った子どもの育ちに関わる実践、特に非行などの課題をもった子どもへの関わりに焦点をあて、そこでの支援実践事例をもとに、「個と個が関わりあう関係」に着目していくアプローチについて理解を深めていく。
配当年次	1年・2年前期	
単位数	2単位	
現代教育実践学Ⅱ（幼児教育学） 2026年度開講せず		本授業では、日本及び諸外国の教育・保育思想や理論、先駆的な実践について学び、幼児教育・保育を概括的に捉えて、幼児教育・保育の基本的な考え方への理解を深める。それを踏まえて、現代日本及び諸外国のさまざまな幼児教育・保育実践に触れ、子どもの発達にふさわしい実践が展開されるためのカリキュラム作成の基礎的研究を行う。具体的には、授業各回で示すキーワードを中心に、関連する文献を読みながら理論及び実践を分析し検討する形で進めていく。
配当年次	1年・2年前期（隔年開講）	
単位数	2単位	
現代教育実践学Ⅲ（教育心理学）		主体的で協働的な学習や深い学習、創造的問題解決力の育成など、学習観が転換する現代の教育実践をとらえる視座を得ることを目的とする。被教育者の発達と学習を中心とする教育心理学研究、教師をはじめ教育者の発達と学習に関する教育心理学研究を解題する。被教育者と教育者の両面からの考察により、関係論的な視点から教育という営みをとらえ直す。さらに、教育心理学の知見を具体的な教育実践の事例と照らしながら検討し、実践と研究の構想につなぐ機会とする。
配当年次	1年前期	
単位数	2単位	
現代教育実践学Ⅳ（発育発達学）		身体の発育・発達は多くの要因によって変化し、生涯の健康に大きな影響を与える。特に生涯の健康にとって幼児期の発育発達は大きく関与しており、正しい発育発達の促進と健康の保持増進は、子どもの生きる力を育み、学力や非認知能力を高めることに貢献する。また現在の子どもを取り巻く生活環境の変化から、予防医学的見地からの健康課題も多く多様な研究報告がなされている。そこで本科目では子どもの発育発達を科学的根拠を基に解説すると共に子どもの発育・発達問題等に関する調査データを読み解きながら課題の解決を進めていく。さらに教育・医療・福祉分野で実際に実施されている発育発達を評価する測定方法についても知識を修得する。
配当年次	1年後期	
単位数	2単位	
現代教育実践学Ⅴ（教育社会学）		今日の教育をめぐる諸問題について、教育社会学の視点から検討する。教育社会学では、教育事象を広く社会とのかかわりの中でとらえ、その意味を考察するため、扱うテーマは多岐にわたり、例えば、近代学校制度、教師集団、学力問題、市民社会、教育改革などが挙げられる。本科目では、最初に、教育社会学における基本的な考え方について学んだ後、これらの教育テーマについて検討し、教育者としての幅広い視野と知識を身に着けることをめざす。
配当年次	1年・2年前期（隔年開講）	
単位数	2単位	
研究方法論Ⅰ		教育学研究に必要な方法論や研究事例を学び、教育学研究を行うために必要な知識や技能を身につける。具体的には教育・保育を多角的に分析するための視点や方法を修得するために、質的及び量的アプローチによる研究の手法を学ぶことが目的である。とりわけ本科目では、社会調査法に依拠しつつ、エスノグラフィーの技法や、統計解析を用いた数量データの分析方法について学習した上で、それぞれの研究をデザインできる力の獲得を目指す。
配当年次	1年前期	
単位数	2単位	

授業科目名		授業の概要
研究方法論Ⅱ		教育学研究に必要な方法論や研究事例を学び、教育学研究を行うために必要な知識や技能を身につける。具体的には教育・保育を多角的に分析するための視点や方法を修得するために、質的及び量的アプローチによる研究の手法を学ぶことが目的である。とりわけ本論では、心理学的な観点から、観察法、面接法、質問紙調査法、実験法などの各方法論の実証性と限界について理解した上で、研究課題の定め方、研究計画の立て方、研究手法の選び方、分析方法などについての学びを深めることを目的としている。
配当年次	1年前期	
単位数	2単位	
カリキュラム開発特論Ⅰ（学力と評価）		本講義では、戦後日本における学力論争に即して登場した議論や学力構造・モデルについて、例えば広岡亮蔵や勝田守一の学力モデルや新学力観における氷山モデル等を歴史的に検討するとともに、現代における国際的な学力調査（PISA）等での学力観やリテラシー観について検討します。また学力問題は評価論とも密接に関わるため、評価を巡る議論について到達度評価の議論やパフォーマンス評価（真正の評価論）の議論も合わせて吟味していきます。これらの検討を踏まえて、現在の進み行く教育改革を分析する知見を得ることを目標とします。
配当年次	1年・2年後期（隔年開講）	
単位数	2単位	
カリキュラム開発特論Ⅱ（リテラシー） 2026年度開講せず		PISAが示すリテラシー能力を育成するためのコンピテンシー・ベースのカリキュラム開発が行えるように、その理解を深め、構想につなげる能力を育成する。中でも本講義では、言語学習開発論として、第一言語習得および第二言語習得の理論と実践を概説する。特に幼稚園・小学校時期における言語教育の実践について、英語および母語である国語を中心に、リテラシー能力及びコミュニケーション能力の養成と学習について、ケーススタディーを交えながら理解を深めていく。併せて、アクティブラーニングやICTなどの指導方法を導入する言語学習カリキュラム開発についても理解を深める。
配当年次	1年・2年後期（隔年開講）	
単位数	2単位	
カリキュラム開発特論Ⅲ（身体と健康）		子どもの学びの履歴としての体育科教育のカリキュラムを開発し実践できる力を育てるために、児童・生徒が主体的に取り組むための学習指導に焦点をあてて、カリキュラム開発のあり方について理解を深める。また、予防医学的見地からみた健康と身体について考察する。中でも本講義では、身体活動と健康、スポーツと健康の相関的･相乗的な関係の基本理念について、生理的･医科学的な特徴と関係から概説する。また現代社会における子どもの身体に関する健康課題について、最新の科学的根拠を基に解説し、保育・教育現場で実践可能な解決法の提案を試みる。
配当年次	2年前期	
単位数	2単位	
カリキュラム開発特論Ⅳ（表現） 2026年度開講せず		コンピテンシー・ベースのカリキュラム、子どもの学びの履歴としてのカリキュラムを開発し実践できる力を育てるために表現領域に焦点をあてて、カリキュラム開発のあり方について理解を深めることを目的としている。まず、表現のカリキュラムに関する現状と課題、基礎理論を講義を通して理解する。次に表現とは何か、芸術表現、遊びと表現、総合表現の観点から文献講読通して理解を深める。そして主なカリキュラムの事例検討を行い、ディスカッションを行いながら各問題について整理する。以上をふまえ、表現領域におけるカリキュラム研究と実践を行い、カリキュラム開発の視点を得る。
配当年次	2年前期（隔年開講）	
単位数	2単位	
カリキュラム開発特論Ⅴ（集団学習論）		本授業は、集団学習の1つの形態として演劇教育に着目し、「演劇と教育」の接点について検討しながら、具体的な手法を体験的に学ぶ授業です。まず日本および海外の演劇教育の歴史的流れを踏まえ、演劇教育のさまざまな立場を理解します。そのうえで、近年のアクティブラーニングを推奨する教育改革と演劇的手法の関係性を考察し、日本における演劇教育の現代的な位置づけを検討します。また、演劇的手法の代表的なワークを実際に体験し、その体験を省察しながら、ワークの手順や目的、演劇教育の基本的概念を学んでいきます。最後に、具体的文脈に即した教育実践のデザインを行います。
配当年次	1年・2年後期（隔年開講）	
単位数	2単位	
学校教育実践演習Ⅰ		小学校、幼稚園におけるフィールドワークにより、言語能力育成に関わる諸課題を軸として保育、授業づくりの検討を行う。ボランティアあるいはインターンシップとして学校教育に参加しつつ、参与観察や関係者へのインタビュー等をとおして、多角的、立体的に課題を探究する。その際、大学院生の協働によるフィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。そのことで課題分析を深化させるとともに、解決へ向けて創造的、組織的に実践できる力を身につける。
配当年次	2年前期	
単位数	2単位	
学校教育実践演習Ⅱ		大学院生と教員による協働研究を通じて、幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発と、保育・授業づくりの検討を行う。その際､大学院生による小学校や幼稚園での｢フィールドワーク」と、大学院生の協働によるフィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。そうすることで、幼稚園・小学校現場で中心的な役割を担いながら、創造的なカリキュラム開発と保育・授業づくりを組織的に実践できる力を身につけることができる。
配当年次	2年後期	
単位数	2単位	

授業科目名		授業の概要
教育コミュニティ特論 2026 年度開講せず		子供のよりよい育ちのためには、コミュニティ全体で総合的に子供を支えていくことが必要であるという立場から、主に子供を中心とした教育コミュニティについて扱う。前半では、教育コミュニティに関する理念や、それが必要とされる背景及び現状について学び、これまでの「学校と地域の連携」と「教育コミュニティ」の違いについて考える。後半では、国内外の教育コミュニティに関する様々な事例をもとにして、教育コミュニティづくりの実態および工夫や課題について検討し、よりよい教育コミュニティに必要なものは何かについて受講生と議論していきたい。
配当年次	1 年・2 年前期（隔年開講）	
単位数	2 単位	
多文化共生社会特論		グローバル化時代における教育のあり方について、国内外の事例や学術領域において構築された理論等を踏まえて考察する。具体的には、国境を越えて移動する人々（＝移民）に焦点を当て、多様な文化的背景をもつ子どもたちを包摂するための教育を構想することを通じて、教育者として多文化共生社会の実現に貢献するための知識・能力を獲得することをめざす。その際、単に日本と外国（海外）という視点だけでなく、アイヌ文化や琉球文化、さらには文字文化などより広い意味での「多文化」を議論し、多文化共生社会に対する広範な視野を獲得することをめざす。
配当年次	1 年・2 年後期（隔年開講）	
単位数	2 単位	
対人援助特論		今日、教育をめぐる問題は複雑多様化してきている。不登校、いじめ、貧困、虐待など、学校は子どもが抱える様々な課題に直面している。そのような状況にあって、すべての問題に教員のみで対応するのはもはや困難である。本授業では、より広い見地から教育実践の省察を通して問題解決を模索していく。実践的な学びとして、スクールカウンセリングやスクールソーシャルワークなどを活用した「チーム学校」を念頭に置き、さらにコミュニティにおける多様な対人援助の協働による支援のあり方を検討する。
配当年次	2 年前期	
単位数	2 単位	
家庭支援特論		家族の構造、形態、機能について諸理論について理解した上で、今日の子育て家庭に焦点をあて、家庭支援の意義と役割についての認識を深めていくことを目的とする。具体的には、家族の今日的な課題を明らかにした上で、特に家庭の教育的機能に焦点をあて、家族内コミュニケーションのあり方について理解を深めていく。さらに、家庭教育支援を実施していくにあたって、システムズ・アプローチの認識論に立って家族の問題をとらえる意義、さらには社会構成主義の考え方を踏まえた具体的な支援の方法論について考究していく。
配当年次	1 年・2 年後期（隔年開講）	
単位数	2 単位	
地域教育実践演習 Ⅰ		地域には学校以外にも教育を支える様々な組織や人々が活動している。例えば、学校にいけない子供たちの居場所を提供するフリースクールの活動、地域の歴史や文化を教える活動、諸外国の人々との交流を図る活動などである。これらの活動を支えているのは、（広い意味での）ボランティアや非営利組織（NPO）であることが多い。本科目では、地域における学校以外の教育組織に着目し、実際にこれらの組織でフィールドワークを行いながら、地域教育にかかわる組織の活動とその意義について検討する。
配当年次	2 年前期	
単位数	2 単位	
地域教育実践演習 Ⅱ		「地域教育実践演習 Ⅰ」において、フィールドワークを通じて、学校以外の地域教育組織について身につけた知見をさらに展化・深化させることを目的とする。つまり、地域において、学校とは異なる目的や方法によって活動する教育組織の意義を理解した上で、地域にとってより効果的な学校と地域組織との協働の在り方を模索する。フィールドワークを通じて地域教育の活動に関わりながら、学校を含めた多様な教育機関の協働が、地域教育にもたらす可能性と課題を検討する。
配当年次	2 年後期	
単位数	2 単位	
教育組織開発特論 2026 年度開講せず		教育にかかわる集団や組織を社会関係資本や組織論の観点から検討し、教育効果を生みだす組織開発について考察する。具体的には学級集団、教職員集団、地域社会に着目し、友人関係、教師と生徒の関係、校長のリーダーシップ、家族・保護者との協働などを取り上げる。ただ、特定の条件を満たせば、必ず教育効果が上がるというものではないことも事例を通じて示し、教育組織の開発には、個々の条件や環境を考慮した多様な取り組みが必要であることを検討する。
配当年次	1 年・2 年後期（隔年開講）	
単位数	2 単位	
コミュニティ・スクール特論		まず、コミュニティ・スクールの概要を知り、コミュニティ・スクールの目的と活動を理解できるようにする。次に、テキストを使って、今後の研究目的や研究方法を理解する。3 番目に、テキストを輪読し、コミュニティ・スクールの制度や学校運営協議会の活動について、グループワーク等を通して理解できるようにする。さらに、コミュニティ・スクールの実地研修を行い、コミュニティ・スクールについての自分の考えをまとめることができるようにする。
配当年次	2 年後期	
単位数	2 単位	

授業科目名		授業の概要
シチズンシップ教育特論		シチズンシップ（市民性）とは、民主主義社会の構成員として自立した思考と判断を行い、政治や社会の意思決定や問題解決に能動的に参加する資質を指す概念である。そうした社会創造の価値・知識・技能を涵養する教育が、シチズンシップ教育である。近年の人口変動やグローバル化、社会的排除の広がりなどの急速な社会変容の影響から、求められるシチズンシップ教育も変化している。事例検討と授業でのディスカッションを通じてシチズンシップ教育への理解を深め、自らの興味関心と関係づけることができるように足場を構築していく。
配当年次	2年前期	
単位数	2単位	
インクルーシブ教育特論		最初に「インクルージョン」の基本的な考え方を学ぶ。次いで、障害のある児童生徒に対する教育制度等に関する情報収集を行い、インクルーシブ教育の観点も含めて実施状況及びその課題を探る。特別支援学校等では、「交流及び共同学習」の実施が義務付けられており、その情報収集をもとに課題及び解決策を検討する。全体的には、インクルーシブ教育システムの構築に資する実践等を収集し、学校教育における「共生社会」を目指した取組に関する知見を明確にし、その定着を図る。
配当年次	1年・2年前期（隔年開講）	
単位数	2単位	
研究指導Ⅰ		「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、修士論文作成のための授業であり、フィールドワークとケースメソッドによる省察から生まれた、個々の研究テーマを、フィールドワークを継続しながら探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅰ」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観を通して修得する。 各教員の指導内容においてはシラバス参照のこと。
配当年次	1年前期	
単位数	1単位	
研究指導Ⅱ		「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、修士論文作成のための授業であり、フィールドワークとケースメソッドによる省察から生まれた、個々の研究テーマを、フィールドワークを継続しながら探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅱ」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えた、データの収集・整理・分析方法を修得する。 各教員の指導内容においてはシラバス参照のこと。
配当年次	1年後期	
単位数	1単位	
研究指導Ⅲ		「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、修士論文作成のための授業であり、フィールドワークとケースメソッドによる省察から生まれた、個々の研究テーマを、フィールドワークを継続しながら探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。 各教員の指導内容においてはシラバス参照のこと。
配当年次	2年前期	
単位数	1単位	
研究指導Ⅳ		「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、修士論文作成のための授業であり、フィールドワークとケースメソッドによる省察から生まれた、個々の研究テーマを、フィールドワークを継続しながら探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅳ」においては、修士論文の到達点を明確にし、データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させ、修士論文の完成をめざす。 各教員の指導内容においてはシラバス参照のこと。
配当年次	2年後期	
単位数	1単位	